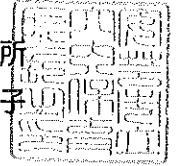


令和3年2月24日

安芸市福祉事務所
所長 山崎美佳 様

安芸市立穴内保育所
所長 小原和香子



令和2年度穴内保育所園評価報告

1 保育所における自己評価の記録

| 月 | 自 己 評 価 | | |
|----|---|-----------|--|
| 4月 | ○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定（評価計画） ○園評価項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価計画の説明と共通理解 | 11月 1月 | ○保護者へのアンケート実施 ○アンケート集計・分析 ○最終評価の実施 （職員の自己評価・園の自己評価） |
| 6月 | ○保護者への園評価の説明 | 2月 | ○保護者・設置者への報告 改善策の検討 |
| 8月 | ○中間評価の実施 （職員の自己評価・園の自己評価） | | |
| 9月 | ○設置者への中間評価の報告、改善策の検討 | | |

2 評価結果

総合的な自己評価結果について

<成果及び課題と改善策>

全職員が中間評価の結果を受けて後期取り組んできた。職員が課題を共有し、これからの保育に繋げていくよう話し合う。また、保護者のアンケート結果からも保育の課題を分析。評価に反映するとともに今後の課題を考え、これからの保育に繋げていくようにする。

- ① 保育・教育活動の充実については、発達から自分の思うように自由に体を動かすことができるようになったことで、積極的に自ら遊びを考え、友だちと一緒に遊びを展開していこうとする姿が見られた。職員はそれを察して環境を整えることができた。一方で、もう少し工夫をすれば、もっと発達に効果があったのではないかという課題点も見られた。
- ② 職員の育成・質向上として、共通意識を持つために学習会を行い、積極的にそれぞれの機関と連携をして取り組むことができた。今回は新型コロナウイルスの影響で、直接会っての連携はできなかったが、電話等でより多くの情報を取り合い連携に努めることができた。
また、職員が研修に参加し、研修内容を共有して保育の課題を全職員で考えることができた。取り組みはまだ充分ではないところもあり、これからの保育を行う中で職員がお互いに意識して取り組んでいく。

- ③ 安全管理については中間評価の中で、職員同士の連携が不十分で怪我へと繋がってしまった事例があった。それを踏まえ、後期は職員同士の日々の動きや連携の仕方等を見直したことで、職員の意識が高まり子どもたちの安全を守ることができた。その他、防災訓練・防犯訓練等も行うことができた。これからも職員同士が連携をして子どもの安全対策に取り組み、地域・保護者への信頼関係を築いていく。
- ④ 地域と保育の連携は新型コロナウイルスや天候の影響で思うような取り組みができなかったが、学校とは密に連携を取って交流を深めることができた。また、子どもたちが自然の中で遊ぶ取り組みも多く取り入れることで、自然の不思議や大切さに気付く姿が見られた。この結果を踏まえて、職員が意識して取り組むことの大切さに気づいた。
- ⑤ 保健管理では日々子どもの健康観察をし、保護者との話や帳面から体調を読み取り早期対応ができた。一方、保護者に集団生活での体調の整え方について十分に伝えられないことがあり、職員会等で伝え方を話し合い、職員全員が共通意識をもってフォローし合いながら保護者に伝えていくことで理解してもらえるようになった。これからも子どもの健康管理に職員全体で取り組んでいく。

| 経営の柱 | 今年度の重点目標 | 評価項目 | 評価指標と評価結果 | | | | 分析・考察 |
|---------------|--------------------------------|--|--|-----|---|-----|--|
| | | | 取組指標 | 結果 | 成果指標 | 結果 | |
| ☆保育・教育活動の充実 | 子どもの年齢発達にあった生活の中で遊びに意欲的に取り組む | 〔全体的な計画・教育課程〕身体を使った遊びの生活環境を整え充実させていく | 4 子どもが望んだ身体を使った遊びが楽しめるよう子ども自ら環境を整えて遊びを展開していく 3 子どもが望む身体を使った遊びが行えるよう環境を整える 2 身体を使った遊びが行えるよう環境を整え遊びを展開していく 1 身体を使った遊びが行えるよう環境を整える | 3.1 | 4 子ども自らが室内や戸外で産んで体を使った遊びを楽しむとする 3 室内や戸外で体を使った遊びを楽しむ 2 室内や戸外で体を使って遊ぶ 1 促されて室内や戸外で遊ぶ | 3.6 | 遊びの中で身体を動かすことが楽しくなってきて、挑戦しようとする姿もみられた。保育者は、子どもの遊びの要求を敏感に察して発達にあった生活環境を整えていくことができた。もう少し遊びのパリエーションを考えるとなおよかった。 |
| ◇職員の育成・質向上や運営 | 共通課題に積極的に取り組む職員の体制づくり | 〔特別支援教育・保育〕特別な配慮を要する子どもの学習を通して共通理解と支援の充実に努める | 4 関連機関と連携して学習会を行い共通理解と支援を充実させる 3 関連機関と連携して学習会を行い共通理解をする 2 学習会を行い共通理解をする 1 学習会を行う | 3.1 | 4 関連機関と連携して共通課題に取り組み支援を充実させることが出来た 3 関連機関と連携して共通課題に取り組む 2 職員同士共通した知識を持つことが出来た 1 学習会に参加する | 2.8 | 病児等の関連機関との学習会を計画していたが、新型コロナウイルスの関係で実施できず、その分関係機関との連携をより深めて情報を共有。課題を考へて取り組むことで支援ができた。また、部会での学びも伝え、共通理解をしていた。給食では、体の発達・健康状態に合わせてその都度量や形状を工夫し、対応していた。 |
| | | 〔研修〕研修内容を共有し、職員が協力して課題に取り組む | 4 職員会の中で研修内容を共有して課題を出し合い、全職員が協力して課題に取り組み保育を向上させていく 3 研修内容を共有し、協力して課題に取り組む 2 定期的職員会や必要に応じて職員会を行い課題を出し合う 1 回覧や口頭で伝達する | 3 | 4 研修内容を話し合い協力して保育の実施向上することが出来る 3 保育の課題を共有し課題に取り組む 2 職員会を開き職員同士課題を共有する 1 研修内容を職員会で知らせる | 3 | 職員会等で研修の報告を行い共有することができた。それを生かし、職員全体で協力して課題に取り組むことができた。 |
| ◎地域に開かれた園づくり | 保護者に信頼され共通理解をもって子どもの発達を充実させていく | 〔安全管理〕保育者の安全対応能力の向上に努め、地域・保護者への信頼関係を深める | 4 常に保育中の子どもの行動をシミュレーションし、安全対応能力を向上させると共に、信頼関係を深める 3 保育の安全に努め、信頼関係を深める 2 保育の安全に努め、信頼関係を作る 1 保育の安全に努める | 3.3 | 4 訓練・学習を通して知識を向上させると共に安全に努め、信頼を深める 3 保育の安全に努め、保護者の信頼を深める事が出来た 2 保育の安全に努めることが出来た 70%以上 1 保育の安全に努めることが出来た 50%以上 | 3.3 | 前期は職員の連携に課題があり、職員全体で日々の連携を見直し意識していくことで、後期は安全に保育ができた。また、日々火の元の点検を行い、調理過程では異物の混入や食中毒が起きないように、安心安全な給食作りを心がげた。 |
| | | 〔保護者・地域住民との連携〕地域の自然環境を保育に取り入れ遊びを充実させていく | 4 地域の自然に触れて友達と楽しさを共有し、遊びを通して大切さを理解する 3 地域の自然に触れて友達と楽しさを共有することで自然の大切さを知っていく 2 地域の自然に触れて友達と楽しさを共有する 1 散歩を楽しむ | 3.2 | 4 友達と地域の自然に触れ、共感しながら自然の大切さに気付く事が出来た70%以上 3 友達と地域の自然に触れ、共感しながら自然の大切さに気付く事が出来た50%以上 2 友達と地域の自然に触れ楽しむことが出来た 1 地域の自然に触れる | 3.1 | すぐ近くに自然があり、繰り返し経験する中で楽しさが分かって来た。また、楽しい経験をした場所へ散歩行きたいという気持ちや興味関心ができ、自然が好きになっている。 |
| | | 〔保健管理〕日常の健康観察や、疾病予防に取り組む | 4 子どもの健康観察をすることで、疾病の早期発見と予防に取り組む 3 健康観察をし、疾病予防に取り組む 70%以上 2 健康観察をし、疾病の予防に取り組む 50%以上 1 健康観察をする | 3.2 | 4 子どもの健康観察をすると共に、保護者との会話の中で健康状態を把握し、予防する 3 子どもの健康観察をすると共に、保護者との会話の中で健康状態を把握する 70%以上 2 子どもの健康観察をすると共に、保護者との会話の中で健康状態を把握する 40%以上 1 登所時に子どもの健康観察をする | 3.2 | 施設内の清掃や害虫駆除・消毒などにも気を付け、子どもの健康観察を行うことで、疾病の早期発見と予防に努めてきた。また、子どもが体調を崩した際の望ましい対応も伝えていく中で、保護者にも理解してもらえる様になってきた。調理では、食中毒が起きないように手洗いや温度管理を行ない予防することができた。 |